

NERIMA
ART
MUSEUM
NEWS

2022

練馬区立美術館 ニュース

26



練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

CONTENTS

- 03 — 館長あいさつ
- 04 — MUSEUM CALENDAR
- 06 — 展覧会紹介
- 11 — 2021年度新収蔵品紹介
- 18 — 教育普及事業のご案内
- 20 — 公募展のご案内
- 21 — 貸出施設について
- 22 — 施設案内
- 23 — 交通案内

5本の充実の企画展が揃う、 今年の練馬区立美術館

美術館のリニューアルを数年後に控えて、改修後の美術館の姿を構想しつつ、そこへとつながる企画展を本年は揃えています。それぞれ充実の内容ですのでどうぞご期待ください。

見どころをご紹介しますと、今年度第一弾は4月上旬から始まる「時代を映す絵画たち 展 ―コレクションにみる戦後美術の歩み―」。収蔵作品の中から、約30名の作家による多彩な絵画表現を戦後から現代までに的を絞ってご紹介します。今年は、二つのコレクション展を開催しますが、第一弾が戦後絵画の展覧会になります。

続いて6月後半から8月中旬までは「生誕100年 朝倉撰展」。朝倉撰は、画家、舞台芸術家として活躍したアーティストで、幅広い仕事で知られています。60年安保闘争をきっかけに舞台美術の世界に入り、力を発揮します。代表的な舞台美術の下絵、挿絵、絵本原画などに、絵画作品を加えて、約150点で展覧し、全貌に迫る内容です。

また、9月上旬から11月上旬にかけては、「日本の中のマネ展」を開催します。19世紀のフランスを代表するマネがいかにして日本に愛され、受け入れられてきたかを日本の近代美術の流れとともにご紹介する、画期的な内容です。日本とフランス近代美術の関わりがマネを通して理解でき、マネをはじめとした近代洋画を堪能できる貴重な機会ともなります。

続いて、11月中旬から2023年2月までは、「冬のコレクション展(仮)」です。収蔵品の中からテーマ毎に作品を並べていきます。コレクションの意義を再発見する機会となるでしょう。

また、「吉野石膏コレクション展 絵画と貴重書の世界(仮)」では、吉野石膏株式会社と公益財団法人吉野石膏美術財団の貴重なコレクションから、国内外の近現代絵画や中世彩飾写本などの書籍を約100点で紹介します。

さらに、ここでご紹介した展覧会だけでなく、ワークショップ、鑑賞プログラム、講演会など、自ら体験・学習する教育普及事業や託児サービス事業も、適宜状況をみながら、引き続き実施する予定であります。

予断を許さない新型コロナウィルスの感染状況ですが、予防に心がけて、開館していく所存でございますので、今年も練馬区立美術館をよろしく申し上げます。

2022年4月
練馬区立美術館 館長 秋元雄史



	2階 展示室 1	3階 展示室 2・3
2022 4		
5	<p>時代を映す絵画たち 展 —コレクションにみる戦後美術の歩み— 2022年4月10日[日]～6月12日[日]</p>	1
6		
7	<p>生誕100年 朝倉撰 展 2022年6月26日[日]～8月14日[日]</p>	2
8		
9		
10	<p>日本の中のマネ 展 2022年9月4日[日]～11月3日[木・祝]</p>	3
11		
12	<p>冬のコレクション 展(仮) 2022年11月18日[金]～2023年2月12日[日]</p>	<p>第68回 練馬区美術家協会展 2022年11月18日[金]～27日[日]</p>
2023 1		<p>練馬区中学校生徒作品展 2023年1月14日[土]～18日[水]</p>
2		<p>練馬区小学校連合同工展 2023年1月21日[土]～26日[木]</p>
3		<p>練馬区小中学校連合書きぞめ展 2023年1月28日[土]～29日[日]</p>
4	<p>吉野石膏コレクション 展 絵画と貴重書の世界(仮) 2023年2月26日[日]～4月16日[日]</p>	<p>第54回練馬区民美術展 2023年2月4日[土]～12日[日]</p>
		5

時代を映す絵画たち 展

— コレクションにみる戦後美術の歩み —

会期：4月10日[日] — 6月12日[日]

1985年に開館した練馬区立美術館は当初より美術作品の収集に取り組み、作品数は現在約5,500点、寄託作品を含めれば約7,500点に上っています。この中でも絵画作品は、日本の戦後美術の流れを語るのに欠かせない作品を含む、重要なパートとなっています。

そこで今回のコレクション展では、そうした所蔵品の中から、戦後まもなく描かれた作品から近年に制作されたものまで、約35名の作家による油彩画を中心とした約70点の作品を展示し、表現の流れを振り返ります。

こうしたコレクションは、各時代の世相や思想を様々なかたちで映すものです。またそれは、開館して37年を迎える当館の歴史そのものでもあります。様々な経緯で収蔵(購入・寄贈・寄託)されてきた作品たちは、収蔵庫から展示室に移り観客の視線を受けることによって、新たにその表情を輝かせるでしょう。見られることによって何度でも繰り返す、けれどもその場だけの唯一の時間、そうした出会いを演出したいと思います。

出品予定作家(50音順)

浅見貴子／荒川修作／池田龍雄／石原友明／上田 薫／大小島真木／大沢昌助
岡本唐貴／小野木学／オノサト・トシノブ／北川民次／北代省三／工藤哲巳
久野和洋／小山穂太郎／近藤竜男／佐藤敬／嶋田しづ／白髪一雄／諏訪直樹
高橋 秀／高松次郎／高山良策／辰野登恵子／谷川晃一／鶴岡政男／中西夏之
中林忠良／中村 宏／難波田龍起／野見山曉治／藤松 博／村井正誠／山口 薫
山口長男／山田正亮

観覧料：一般 800円



左：北川民次《姉弟》1949年 油彩・カンヴァス
中：高松次郎《影》1978年 アクリル・カンヴァス
右：谷川晃一《春の月》1990年 リトグラフ・紙

生誕100年 朝倉 展

会期：6月26日[日] — 8月14日[日]

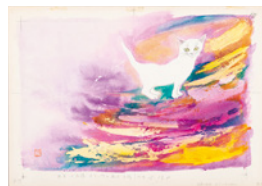
画家・舞台美術家として活躍した朝倉 昶 (1922-2014) の全貌に迫る、はじめての本格的な回顧展です。

彫刻家・朝倉文夫(1883-1964)の長女として東京・谷中に生まれた朝倉は、父の方針により独自の家庭教育を受けて育ちました。17歳のときから日本画家・伊東深水に学び、絵画の道を歩みはじめ、1940年代初頭には、モダンな人物像を洗練された色彩感覚で描き出し、若くしてその才能を認められていきます。

戦後は、創造美術を経て新制作協会日本画部に所属する中で、ピカソなど海外作家の探究にもとづいたキュビズム的な作風へと展開を見せました。また、日本が直面する社会的問題にも興味を広げ、佐藤忠良ら仲間の芸術家たちと地方の漁村や炭鉱を訪れ、労働者の生活に取材した社会派の作品を次々に発表。1953年には《働く人》で上村松園賞を受賞しています。一方で、1950年代から本格的に取り組むようになった舞台美術は、朝倉の探究心をかき立てる新たなジャンルであり、1960年代後半から、しだいに絵画から舞台美術へと活動の比重を移すこととなりました。

生前、朝倉の意向もあり、日本画時代の作品が公開される機会は多くありませんでした。没後、アトリエに残された作品が各地の美術館に寄贈され、断片的だった活動をつなぐことが可能となりました。本展では、日本画だけでなく絵本の原画や挿絵の仕事も合わせ、朝倉の創作活動の全体像を紹介します。

観覧料：一般 1,000円



左：《群像》1950年 紙本着色 練馬区立美術館
右上：《作品》1963年 リトグラフ・紙 練馬区立美術館
右下：『スイッチョねこ』原画 1971年 アクリル・イラストボード 大佛次郎記念館

会期：9月4日[日] — 11月3日[木・祝]

19世紀フランスを代表する画家エドゥアール・マネ (Edouard Manet, 1832–83) の日本における受容について考察する展覧会です。我が国における洋画黎明期の美術家や美術批評家たちはどのようにマネを解釈し、理解したのでしょうか。美術批評家で画家の石井柏亭は、マネへのオマージュ作品を手掛け、白樺派の画家として知られる山脇信徳はマネ作品を模写しています。また、医師で詩人、小説家、美術批評家の顔を持つ木下杢太郎はマネを理解するところぞ、西洋近代絵画を受容する上で不可欠であると主張しました。本展では、このようなマネをめぐる受容の全体像に迫りたいと思います。

西洋近代美術におけるマネの位置づけを確認した上で、明治から昭和初期にかけて見られる批評や作品から日本における最初期のマネ受容について検討し、更に、森村泰昌や福田美蘭という現代の日本を代表する美術家のマネ解釈を紹介します。日本におけるマネ像を探る展覧会です。

観覧料：一般 1,000円

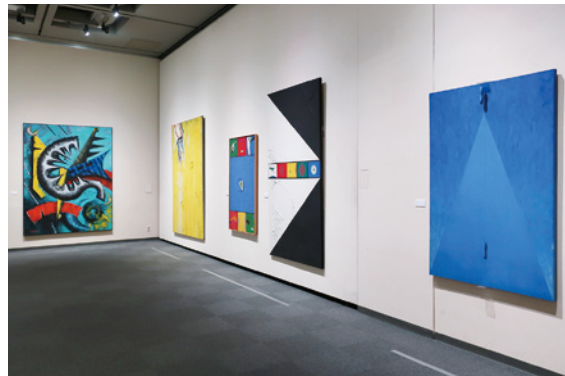


左：エドゥアール・マネ 《イザベル・ルモニエ嬢の肖像》1879年
油彩・カンヴァス 吉野石膏コレクション
右：アルフレッド・シスレー 《モレのポプラ並木》1888年
油彩・カンヴァス 吉野石膏コレクション

会期：11月18日[金] — 2023年2月12日[日]

練馬区立美術館では、日本の近現代美術を中心とした作品の収集と保管に努めてきました。開館より37年にわたって、地域ゆかりの作家や展覧会等を通じて収集を行い、特色あるコレクションを形成しています。これらの中からテーマを設定して作品を展示し、当館コレクションのユニークな一側面を紹介いたします。

観覧料：無料



参考：「8つの意表」展 2021年

吉野石膏コレクション展 絵画と貴重書の世界(仮)

会期：2023年2月26日[日] — 4月16日[日]

「吉野石膏コレクション」は、建材メーカーの吉野石膏株式会社が長年にわたって収集してきた西洋絵画・日本近現代絵画のコレクションです。また、同社が芸術を通じて社会に貢献したいとの思いから設立した公益財団法人吉野石膏美術振興財団には、貴重書コレクションを有するアートライブラリーがあります。本展では、このふたつのコレクションから、絵画と本との結びつきに注目して選んだ約100点をご紹介します。

アートライブラリーのコレクションは、中世彩飾写本から近代のアーティスト・ブックに至る、ヨーロッパの美しい本の歴史をたどるものです。なかでも印象派の画家カミーユ・ピサロの息子、リュシアン・ピサロが設立したエラニー・プレスのコレクションは、国内唯一を誇ります。吉野石膏コレクションから、これらにゆかりの近代フランス絵画をご覧いただくとともに、日本画家、洋画家の“本”にまつわる作品もあわせて展示いたします。

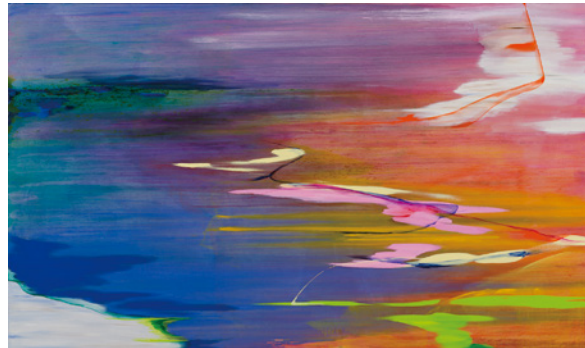
観覧料：一般 1,000円



上：カミーユ・ピサロ《ロンドンのキューガーデン、大温室前の散歩道》1892年 油彩・カンヴァス
左下：シャルル・ペロー『眠れる森の美女・赤ずきん：ふたつの寓話』エラニー・プレス 1899年
中下：《時禱書零葉》羊皮紙 15世紀フランス
右：上村松園《深雪の園》制作年不詳 絹本・着色

2021年度新収蔵品紹介

作品：計31件(寄贈) / 資料：計6件(寄贈)



流麻二果

(ながれまにか・1975生)

新収蔵作品2件



上：《さつき静まる浜村 / Deserted Seaside Village in May 2020》2020年
油彩・キャンバス 112×189.8cm

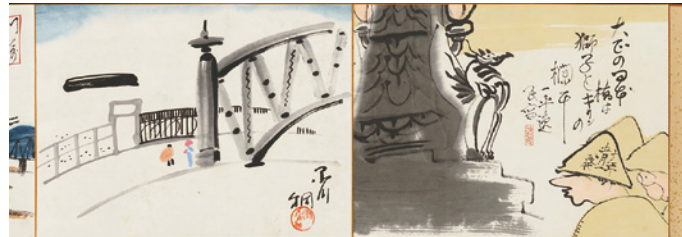
下：《色の跡：松岡静野「舞妓」 / Traces of Colors: Shizuno Matsuoka "Maiko"》2020年
油彩・キャンバス 52×41cm

大小島真木
 (おおこじままき・1987生)
 新収蔵作品 10 件



- 上左：《エンタングルメント・ハート 階層のリアリティ》2020年
 アクリル、鉛筆、油性色鉛筆・アルシュ紙 38×28cm
- 上右：《エンタングルメント・ハート 地の果てに至るまで》2020年
 アクリル、鉛筆、油性色鉛筆・アルシュ紙 38×28cm
- 下左：《エンタングルメント・ハート ハウリング》2020年
 アクリル、鉛筆、油性色鉛筆・アルシュ紙 38×28cm
- 下右：《エンタングルメント・ハート つくも神》2020年
 アクリル、鉛筆、油性色鉛筆・アルシュ紙 38×28cm

岡本一平ほか
 (おかもと いっぺい・1886-1948)
 新収蔵作品 1 件



岡本一平ほか《東海道五十三次漫画絵巻》1921年 紙本淡彩 卷子本2本1組 各29.5×760cm

品川工
 (しながわたくみ・1908-2009)
 新収蔵作品 1 件



《飛沫》不詳 木版、実物版・紙 62×46.5cm

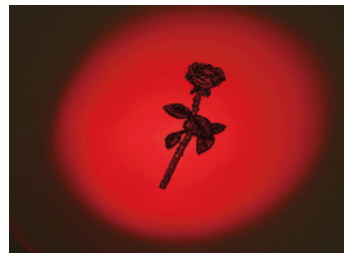
青山 悟

(あおやまさとる・1973 生)

新収蔵作品 13 件



- 上左：《Social Distancing Cap》2020年 キャップ、布に刺繍 可変
 上右：《Social Distancing Measure (再制作)》2020年 メジャー、布に刺繍 可変
 中左：《Rubber Gloves (再制作)》2020年 ゴム手袋に刺繍 可変
 中右：《WHO SAID SO Mask (再制作)》2020年 マスクに刺繍 可変
 下左：《旗と聖火》2020年 紙に刺繍 可変(元の紙サイズ 27.5 × 23cm)
 下右：《Blue Umbrella and Surveillance Camera》2020年 紙に刺繍 可変(元の紙サイズ 27.5 × 23cm)



- 上左：《Rose Patch》2020年 紙に刺繍 13.5 × 5.8cm
 上右：《Black Lives Matter Patch》2020年 紙に刺繍 9.8 × 7.7cm
 中左：《Blue Impulse》2020年 紙に刺繍 可変(元の紙サイズ 27.5 × 23cm)
 中右：《F35》2020年 紙に刺繍 可変(元の紙サイズ 27.5 × 23cm)
 下左：《Hope》2020年 紙に刺繍 可変(元の紙サイズ 27.5 × 23cm)
 下右：《息ができない》2020年 マスクに刺繍 可変
 下：《Light the Future Patch (再制作)》2020年 布に刺繍 36 × 5cm



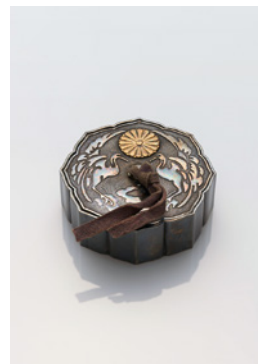
富井大裕
(とみいもとひろ・1973生)
新収蔵作品 4件



上左：《寝技と立技 #2》2019年 箒、ポルト、ナット 127×36×141cm
上右：《waste basket and waste paper (wood / round)》2020年 ゴミ箱、紙、指示書 34×22×22cm
中：《v》2020年 竹、クラブ、ポルト、ナット 178×18.5×20cm
下：《展示プラン》2020年 塗装されたパネルに鉛筆、クレヨン、アクリル 220×250×5.6cm



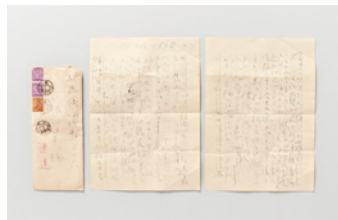
大沢三之助 資料
(おおさわさんのすけ・1867-1945)
新収蔵資料 5件



上：《太刀》1915年 刀身、拵 2尺3寸
中左：《勲章 勲5等 雙光旭日章》大正年間
真鍮、七宝 4.5×4.5 (9.5) cm
中右：《立太子記念盃》大正年間 銀 Φ9.7×3.8cm
下：《ボンボニエール》大正年間 銀 Φ6×2cm



朝井閑右衛門 資料
(あさいかんえもん・1901-1983)
新収蔵資料 1件



《ハガキ3点、手紙1点》1950年 紙 ハガキ14×9cm、手紙25.5×18cm (封筒20.2×8.3cm)

教育普及事業のご案内

美術館の核となる、展覧会及び所蔵品への理解を深め楽しむために、様々な入口をご用意しています。子どもから大人の方までふるってご参加ください。

※ギャラリートーク、ロビーでのコンサート・パフォーマンス以外は、ほとんどが事前申込制です。

※各事業の詳細は、なりま区報(30名以上の募集事業)および美術館ホームページに開催1ヶ月前程前から掲載します。また図書館などの区内施設にてチラシを配布しています。

展覧会を様々な角度から楽しむ /

展覧会関連事業

ギャラリートーク、実技講座・ワークショップ、講演会、コンサート・パフォーマンス、鑑賞プログラム「トコトコ美術館」(3～6歳の未就学児+保護者対象 年3回)



ギャラリートーク

担当学芸員やゲストが展示室を回りながら展覧会についてお話しします。

※現在は事前申込制のスライドトークを行っています。

コンサート

ロビーには1877年製のスタインウェイ社のピアノがあり、展覧会に合わせたコンサートが開かれます。



鑑賞プログラム「トコトコ美術館」

テーマに合わせた作品鑑賞と絵本の読み聞かせ、工作をします。初めての美術館に!



実技講座

展覧会に合わせて絵画や版画、彫刻、工芸など本格的な作品作りに取り組みます。



人が集う場作り /

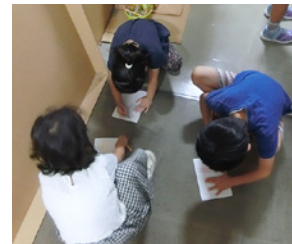
美術館を楽しむワークショップ

館内探検(5歳～小学2年生対象、8月開催)

所蔵品カードで遊ぼう!(小学生～大人対象、12月開催)

「美術館をつかまえる!？」 館内探検とフロッタージュ

毎年夏休みにバックヤードの探検を行っています。フロッタージュしながら館内を巡り、採取した用紙を綴じて美術館標本として持ち帰ります。



美術館の施設及び展覧会を学校の学習に /

スクールプログラム

① 団体鑑賞 ② 施設見学 ③ 職場体験 ④ 出張プログラム
内容に関してはその都度ご相談させていただいています。

※展示替え期間及び当館主催のイベント開催日にはお断りする場合があります。



美術館サポーターの活動

現在26名がサポーターとして活動しています。

主な活動は、美術関連記事の新聞切抜き、イベントの会場受付、練馬ゆかりの作家調べなどです。

公募展のご案内

日頃の創作活動の成果を発表する場として、毎年1回「練馬区民美術展」を開催しています。令和4年度は、11月に出品者を募集しますので、出品をご希望の方は、11月1日号(予定)のねりま区報に掲載の応募方法または区民美術展応募チラシ、当館ホームページをご覧ください。

第54回 練馬区民美術展

会期

2023年2月4日(土)～12日(日)

応募資格

区内在住(または在勤・在学)の15歳以上の方(中学生は不可)

募集作品について(予定)

洋画(油彩、水彩、アクリル、パステル、版画など)
日本画(水墨など)

彫刻・工芸(漆芸、陶芸、染織、和紙絵、押し花絵、切り絵など)



展示風景

貸出施設について

皆さんに美術に対する理解を深め、発展させ、さらに主体的にご参加いただくため、館内の施設を貸出しています。ご利用になる施設によって、申込方法が異なります。詳しくはお問い合わせください。

区民ギャラリー

美術作品の展示発表を目的とする個人、サークル等に貸出します。
1日を単位として、連続6日まで利用できます。(展示・撤去作業の時間を含む)

※2022年度の企画展示室の貸出期間は、12月6日(火)～12月22日(木)、
および1月4日(水)～1月12日(木)の期間です。(2022年4月1日現在)

名称	面積	使用料	貸出条件
2階 一般展示室	85.5㎡	4,000円/日	
3階 企画展示室Ⅰ 企画展示室Ⅱ	200㎡ 208㎡	16,000円/日 (2室分)	企画展示室Ⅰ・Ⅱは、 両室利用が原則

創作室

美術作品の創作・研究・学習活動を目的とする個人、サークル等に貸出します。
午前・午後を単位として、1ヶ月に4枠まで利用できます。

名称	面積	定員	利用時間	使用料	貸出備品・器具など
2階 創作室	110㎡	30名	[午前] 10:00～13:00	1,200円	作業台、スツール(椅子)、 イーゼル、ホワイトボード、 プレス機、石膏モデル等
			[午後] 14:00～18:00	1,600円	

※練馬区長が認める生涯学習団体は、使用料減免制度に基づき50%減額します。



一般展示室



創作室

施設案内

予約制ではありません。

当日、チケットカウンターでチケットをお求めください。
(無料展は直接展示室へお越しください)

開館時間 10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週月曜日(ただし、月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)、
年末年始(12月29日~1月3日)、展示替えなどによる準備期間中

観覧料 展覧会により異なります。詳しくは各展覧会ページをご覧ください。
なお、いずれの展覧会も、中学生以下および75歳以上の方は無料で
ご覧いただけます。(年齢等の確認できるものを提示した場合に限る)

図録の販売 展覧会に合わせて作成した図録は、2階「図録・グッズコーナー」で
販売しております。ご来館の難しい方は、通信販売の取扱いもござ
いますので、問い合わせください。

バリア フリー

- ・当館の展示室は2階・3階にございます。
館内にはエレベーターを設置しております。
- ・誰でもトイレを設置しております。
- ・障害者の方は、当館のご利用に限り
駐車場をお貸しできます。(事前予約制)
- ・館内で利用いただける、
車椅子・ベビーカーを用意しております。(数に限りがあります)
- ・授乳室を設置しております。
- ・受付に筆談ボードを用意しております。

ご来館のみなさまへお願い

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、
下記のとおりご協力をお願いいたします。

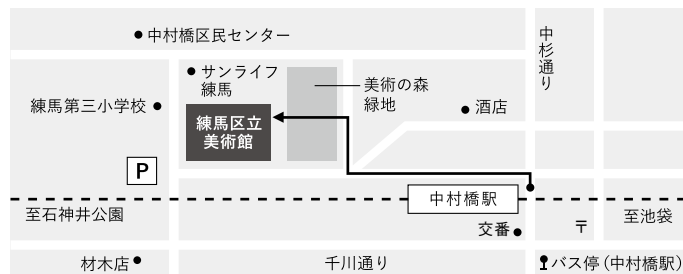
- 以下の症状がある場合はご来館をご遠慮ください。
発熱(37.5℃以上)、頭痛、せき、のどの痛み、嗅覚・味覚の違和感、倦怠感
- 館内ではマスクをご着用ください。
- 検温、手指消毒、トイレご利用後等のせっけん液での手洗いに協力ください。
- 展示室内では、隣の方と十分に間隔をとり、会話を控えてご鑑賞ください。

交通案内

鉄道 西武池袋線「中村橋」駅下車 徒歩3分

バス 関東バス「中村橋駅」停留所下車 徒歩5分

阿佐ヶ谷駅北口 — 中村橋駅《阿01》系統終点
荻窪駅北口 — 中村橋駅《荻06》系統終点
荻窪駅北口 — 練馬駅《荻07》系統「中村橋駅」下車



※駐車場はございません。美術館周辺のコインパーキング(有料)をご利用ください。

※障害者用の駐車場については、直接お問い合わせください。

隣接する施設

貫井図書館(1階)

練馬区立美術館で開催された展覧会図録はもちろんのこと、これまでに行われた日本の近現代美術の展覧会図録や関連書籍など、美術に関連する書籍を多数取り揃えています。

美術の森緑地

美術館の前庭にあたる「練馬区立美術の森緑地」には、幻想美術動物園をコンセプトに、カラフルな動物を中心とした20種類32体の彫刻が設置されています。



〒176-0021 東京都練馬区貫井1-36-16 TEL: 03-3577-1821
<https://www.neribun.or.jp/museum.html>

(公益財団法人練馬区文化振興協会が練馬区立美術館の管理運営を行っています)

練馬区立美術館ニュース 第26号

発行: 練馬区立美術館 発行年月日: 2022(令和4)年4月1日

印刷: 山田写真製版所 デザイン: 星野哲也

